

大洗燃料研究棟における汚染事故に関する根本的な原因分析の実施状況について

平成 29 年 10 月 16 日
日本原子力研究開発機構

1. 概 要

原子力機構は、6 月 6 日の大洗燃料研究棟における汚染事故を受け、6 月 26 日、本部に根本原因分析チームを設置した。同分析チームは、事故のきっかけとなった「核燃料物質の不適切な管理の改善」の作業計画、当日の点検等作業の内容及び過去の核燃料物質の貯蔵（保管）状況等、関連する要領類や関係者からのインタビューにより事実関係を調査し、管理上の問題及びその直接的な原因を踏まえ、何故、汚染事故を防げなかったかに関する組織的な要因の分析を行っている。

2. 根本的な原因分析の実施状況

大洗燃料研究棟における汚染事故について、最も再発を防止したい事象を頂上事象に選定し、その背後にある要因の分析を実施した。

頂上事象：核燃料物質を収納した貯蔵容器を点検作業中、樹脂製の袋が破裂し、108 号室を汚染し作業員が内部被ばくした

分析では、時系列に沿ってこの頂上事象である事故に至った背景を、貯蔵容器 No. 1010 に不明瞭な核燃料物質が封入された時期、その後の保管状況及び事故時の作業状況を踏まえ、問題事象（5 件）を抽出し、直接的な原因（12 件）を明らかにした。この内容については、9 月 29 日に原子力規制委員会に報告した法令報告（第 3 報）の別紙「事象の原因」及び別添「8.2 原因分析」のとおりである。

さらに、根本的な原因分析では、直接的な原因の背後にある要因の分析を掘り下げ、核燃料物質の貯蔵（保管）管理、点検等の作業管理及び事故後の対応における業務プロセス上の問題やマネジメントの問題について組織的な要因を整理している。また、是正処置を図るため、それぞれの要因に対する対策の提言を整理している。

3. 今後の対応

- ・現在、組織的な要因を整理しているところであり、これらの整理ができた段階で組織的な要因と対策の提言を確定する。（10 月下旬目途）
- ・根本的な原因分析の結果については、安全・核セキュリティ統括部から大洗研究開発センター及び関連する部署に対して通知する。

なお、大洗研究開発センター及び関連する部署は、根本的な原因分析の結果を踏まえ、是正処置計画を改訂もしくは立案し、計画的に対策を講じていく。

以 上